

栗野地区公園第一期整備計画（案）

栗野地区公園（第一期整備計画区域） 平成25年度末の開園をめざします

1 概要

- ・ 所在 鎌ヶ谷市栗野字上葉貫台 745-1 他
- ・ 計画決定 平成15年4月4日
- ・ 計画区域 8.3 ha
- ・ 事業認可 第一期：平成15年9月24日
- ・ 認可区域 5.6 ha（第一期整備計画）
- ・ 買収済み用地 約5.38 ha（平成24年度末）
- ・ 借地 約0.22 ha（平成24年度末）

2 基本理念

鎌ヶ谷市では“緑とふれあいのあるふるさと鎌ヶ谷”の実現に向け市内最大の樹林地である「(通称)栗野の森の公園計画(栗野地区基本計画：平成13年度作成)」を立案しました。

この計画では、市民との協働による、より良い公園とすべく整備計画を立案するに際し、「みんなの手で“共存の森”をつくろう」をテーマとして、次の3つを目標に計画したものです。

- (1) 人と人、人と自然の共存、共栄を具現化する公園
- (2) 自然体験型レクリエーション施設として憩い、楽しみ、学び、感じる公園
- (3) 森の運営、環境活動など市民の社会参加の場としての公園

3 経緯

栗野地区公園（第一期整備計画区域）の整備計画策定に当たり、住民協働による公園づくりをめざし、市民公募委員、自治会及び学識経験者等からなる栗野地区公園整備懇談会を設置しました。

平成24年10月に第1回目の懇談会を開催し、4回にわたり委員の皆様からの意見をいただく中で整備計画案がまとまりました。

4 整備方針

栗野地区公園の中心となる(通称)栗野の森は、これまでの調査で、保護が必要な植物、タヌキや野ウサギ等の動物の生息が確認されております。

更には準絶滅危惧種であるオオタカの確認、営巣跡が確認されるなど、多種多様な動植物等に囲まれた樹林地です。

このことから、公園の整備に当たっては、この豊かな自然を将来にわたり保護するため（通称）栗野の森内については、整備を必要最低限にとどめ、公園利用者の散策や多種多様な植物観察が楽しめる観察路として園路を整備するにとどめます。

なお、貴重な植物等を保護するため、公園灯は設置せず、防犯上の観点から夜間は立ち入り禁止とします。

5 整備概要について

（１）園路

（通称）栗野の森内を一周できる園路を設置します。園路の構造は、周辺の植物や樹木を保護するため、自然路とします。又、公園利用者の誘導、園路以外の立ち入りを規制するため園路両側に高さ60cmのロープ柵を設置します。

（２）外周柵

市道2130号線沿いは自然景観に配慮し、高さ1.2mの木柵（竹）を設置します。

市道8号線沿いについては、ゴミの不法投棄を防ぐため高さ1.8mのフェンス（鉄柵）を設置します。その他（通称）栗野の森に隣接する民地界は高さ1.2mの木柵を設置します。

（３）門扉（夜間施錠）

（通称）栗野の森については、自然環境保護の観点から公園灯を設置しないため、防犯上の観点から、公園利用者出入り口2カ所に門扉を設置し夜間の立ち入りを禁止とします。

（４）駐車場

栗野地区公園の自然環境に配慮し、公園西側に駐車場（13台：内、身障者対応1台）を設置するとともに、（通称）栗野の森までの歩行者専用路を設置します。

（５）その他

公園内出入口に園名板及び現在位置・施設の場所等を記した案内板を設置します。栗野コミュニティセンター裏の更地については、特に公園施設は設けず多目的に使える広場とします。

鎌ヶ谷都市計画図

栗野地区公園





※ イメージ図



一期整備区域

参考

(通称) 栗野の森 植物状況調査 (公園緑地課調査分)

(1) 調査結果の概要

(通称) 栗野の森園路予定地周辺を踏査し、重要な植物等の生育がないかどうか確認を行った。

調査の結果、26科35種の植物が確認された。なお、調査時は早春であり、確認された種はあくまでも参考程度のものであり、春季～秋季に調査を実施した場合はもっと多くの種が確認できると考えられる。

表 2-2-2-1 植物確認種リスト (参考)

	分類	科	和名	学名	備考	
1	シダ植物	ハナヤスリ	オオハナワラビ	<i>Botrychium japonicum</i>		
2		ゼンマイ	ゼンマイ	<i>Osmunda japonica</i>		
3		オシダ	ベニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>		
4	裸子植物	スギ	スギ	<i>Cryptomeria japonica</i>	植栽	
5		ヒノキ	ヒノキ	<i>Chamaecyparis obtusa</i>	植栽	
6	離弁花類	ブナ	クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>		
7			シラカシ	<i>Quercus myrsinaefolia</i>		
8			コナラ	<i>Quercus serrata</i>		
9		ニレ	エノキ	<i>Celtis sinensis</i> var. <i>japonica</i>		
10			ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>		
11		モクレン	コブシ	<i>Magnolia praecocissima</i>		
12		クスノキ	シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i>		
13		アケビ	アケビ	<i>Akebia quinata</i>		
14		ツバキ	ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>		
15		バラ	ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i>		
16		マメ	フジ	<i>Wisteria floribunda</i>		
17		モチノキ	イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i>		
18		ニシキギ	マサキ	<i>Euonymus japonicus</i>		
19		スミレ	タチツボスミレ	<i>Viola grypoceras</i>		
20		ミズキ	アオキ	<i>Aucuba japonica</i>	一部は栽培品の逸出(斑入り)	
21		ウコギ	ヤツデ	<i>Fatsia japonica</i>		
22			キツダ	<i>Hedera rhombea</i>		
23			ハリギリ	<i>Kalopanax pictus</i>		
24		合弁花類	ヤブコウジ	マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>	
25				ヤブコウジ	<i>Ardisia japonica</i>	
26	モクセイ		ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i>		
27			イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i>		
28			ヒイラギ	<i>Osmanthus heterophyllus</i>		
29	キョウチクトウ	テイカカズラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i> f. <i>intermedium</i>			
30	単子葉	ユリ	ナガバジャノヒゲ	<i>Ophiopogon ohwii</i>		
31		ヒガンバナ	キツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i>		
32		イネ	アズマネザサ	<i>Pleioblastus chino</i>		
33		ヤシ	シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>		
34		ラン	シュンラン	<i>Cymbidium goeringii</i>		
35			シュンラン属の一種	<i>Cymbidium</i> sp.	栽培品の逸出と思われる	
		26 科	35 種			

(2) 重要種等

調査の結果、国及び千葉県のレッドデータブック記載種等の重要種は確認されなかったが、公園の景観形成に利用できそうな種として、キツネノカミソリ及びシュンランが確認された。特にキツネノカミソリは花の少ない 8 月頃にオレンジ色のヒガンバナに似た花を咲かせ、林床に群生するので美しい景観を形成することが可能である。また、シュンランも地味だが美しい花を 3～4 月頃に咲かせ、里山らしい景観構成要素となる。

なお、キツネノカミソリは調査時に葉が出始めたばかりの状態であり、確認された場所の周辺にもっと多くの個体が群生している可能性が高い。



写真 2-2-2-1 確認されたキツネノカミソリ（左）と開花写真（右）



写真 2-2-2-2 確認されたシュンラン（左）と開花写真（右）